

# 中村地域実質化された京カ農場プラン

市町村名	地域名	(該当集落名)	当初作成年月	更新年月
宮津市	栗田	中村	令和5年3月	

## 1 対象地区の現状

a 地区内の耕地面積	11.50 ha
b アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕地面積の合計	15.91 ha
c 地区内における80歳以上の農業者の耕作面積の合計	0.53 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	0.53 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.00 ha
d 地区内において今後中核的担い手が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.20 ha
e 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.00 ha
(備考)	
dは、5年以内に引受意向のある面積、アンケートの面積には区域外的面積を含む。	

## 2 対象地区の課題

### 課題

当地区は、大雲川を水源とする肥沃な大地が広がり、ほ場整備された農地約20haで、昔から水稻や山の芋、生姜といった作物の輪作体系による栽培が営まれてきたが、土地利用は脇、中村、小寺集落からの個人を中心とした入作となっており、農地の利用も相対的貸借であり、昨今の担い手の高齢化による離農があるなど、農地の集積や集約化が課題となっている。

現在は、約25名の農家により農地の大部分が耕作され、その平均年齢は68歳で、40代の専業農家が2件、50代の兼業農家や定年帰農者の活躍も見られるが、今後10年間で耕作困難となる壮年層の農地利用の方向性は定まっておらず、効率的かつ効果的な農地利用の推進や作業受委託の拡大とともに多様な担い手の確保や従事者の育成、営農組織の確立が課題となっている。

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

中核的担い手を中心に農地集約による農地利用の効率化を進める。